

平成 20 年 10 月 30 日

第 113 回 県内企業・業況調査結果

株式会社 鹿児島銀行

株式会社 鹿児島地域経済研究所

[調査要領]

対象期間 平成 20 年 7 ~ 9 月期実績見込み
平成 20 年 10 ~ 12 月期見通し

調査時点 平成 20 年 9 月下旬

対象企業 県内主要企業 507 社

回答状況 回答企業 333 社、回答率 65.7%

特別質問項目 雇用状況について
平成 21 年度の新規学卒者の採用計画について

用語 今期 = 平成 20 年 7 ~ 9 月期 来期 = 平成 20 年 10 ~ 12 月期

前期 = 平成 20 年 4 ~ 6 月期 前年同期 = 平成 19 年 7 ~ 9 月期

予想 = 前期調査時の今期見通し

D.I. = 「良い」 - 「悪い」、「増加」 - 「減少」、いずれも回答企業割合

1. 今期の業況 ~ 悪化

今期の業況 D.I.は▲51 と、前年同期(38)、前期(46)、予想(43)いずれをも下回り、業況感は悪化した。これは、調査開始(昭和 55 年 7 ~ 9 月期)以来、最低であった平成 10 年 7 ~ 9 月期(47)の記録を更新し、過去最低となった。

項目別にみても、売上・完工高(前期▲27→今期▲35)、損益(同▲33→▲39)および資金繰り(同▲20→▲26)いずれも前期を下回った。特に資金繰りは過去最低を更新、損益も平成 10 年 1 月 ~ 3 月期(43)に次ぐ、過去 2 番目の低水準となるなど、業況は厳しさを増している。また、今期も、仕入価格 D.I.(64)が調査開始以来、最高だった前期(69)に次ぐ高水準となっている。

業況 D.I.を産業別にみると、製造業(同 45 42)、建設業(同 66 68)は前期とほぼ同水準ながら、卸売業(同 42 56)、小売業(同 63 74)、その他産業(同 29 38)は悪化した。

2. 来期の業況見通し ~ やや改善

来期の業況見通し D.I.は▲42 と、今期(▲51)からは改善するものの、依然低い水準が続く見通し。項目別にみると、売上・完工高(今期▲35→来期▲30)、損益(同▲39→▲31)はやや改善するものの、資金繰り(同▲26→▲26)は横ばいで過去最低の水準が続く見通し。

業況見通し D.I.を産業別にみると、製造業(同▲42→▲32)、建設業(同▲68→▲61)、小売業(同▲74→▲57)、その他産業(同▲38→▲29)は改善するものの、卸売業(同▲56→▲54)はほぼ横ばいの見通しとなっている。

3. 設備投資 ~ 前期を上回る

今期設備投資を実施した企業割合は 43%と、前期(38%)を上回り、業況感が悪化するなかでも高水準となっている。

投資内容別にみると、「設備機械等の更新、維持」(66%)が最も多く、以下、「生産・販売能力増強」(28%)、「省力化、合理化、省エネ」(24%)の順で、上位 3 項目の順位に変化はない。

来期に設備投資を予定している企業割合は 37%と、今期を下回る見通し。

4. 経営上の問題点

経営上の問題点としては、「売上・受注不振」(52%)、「原材料・仕入品価格高」(49%)、「競争激化」(46%)が依然大きな割合を占めている。以下、「採算・収益の悪化」(29%)、「人件費等経費高」(21%)の順となっている。

5. 雇用状況について

県内企業の従業員の過不足感については、D.I.6(「過剰」-「不足」、回答企業割合)となり、前年(4)の不足から、過剰に転じた。業種別の D.I.をみると、その他産業(7)では依然不足感がみられるものの、製造業(8)、建設業(15)、卸売業(13)、小売業(12)では過剰感が増した。「過剰」の理由としては、「売上(受注)不振による事業規模の縮小」(81%)が最も多く、次いで「機械化、人員配置見直し等の合理化」(25%)の順となっている。一方、「不足」の理由は、前年同様「募集しても適当な人材が見当たらない」(79%)が最も多かった。

また、職種別の過不足感をみると、「一般事務」でやや過剰感があるものの、「技術開発」や「営業・販売」では不足感が強い。また、年代別でみると、「10~20 歳代」および「30 歳代」では不足感が強い一方、「50 歳代」および「60 歳代」では過剰感が強い。

今後の雇用人員について、増減対象を正社員・パート・派遣社員の区分でみると、正社員、派遣社員は「減少」がやや上回る見通しとなっている。

6.平成 21 年度の新規学卒者の採用計画について

平成 21 年度の新規学卒者の採用計画については、「あり」37%、「なし」44%、「未定」19%となり、採用計画のある企業割合は、前年(38%)とほぼ同水準であった。採用計画がある企業の採用予定人員の増減については、「増加」19%、「前年並み」59%、「減少」22%、D.I. 3(「増加」-「減少」、企業割合)と「減少」超となり、前年(11)を下回り、マイナスに転じた。学歴別内訳の D.I をみると、高校卒(0)、専修学校卒(4)、大学卒(1)以外はマイナスとなっている。

採用目的については、「退職者補充」(56%)がトップで、これに「販売・営業部門強化」(40%)が続く。募集方法は、「学校訪問・求人票送付」(85%)が最も多く、次いで「インターネットのホームページ」(30%)となっている。また、採用の難易度については、予定人員を「確保できそう」(77%)とする向きが大半を占め、その理由としては、「学卒者の県内志向の高まり」(51%)が最も多いが、「全体的な求人数の減少」(33%)が前年(15%)から増加している。

なお、「採用計画なし・減少」の理由としては、「現有の人員で充分」(71%)が最も多く、次いで「組織のスリム化」(24%)、「中途採用で対応」(20%)となった。

以上

【本件に関するお問い合わせ】

(株)鹿児島地域経済研究所 (099-225-7491)

第 113 回 県内企業・業況調査結果集計表

単位：%

四半期別 状況 項目	平成20年4～6月期				平成20年7～9月期					平成20年10～12月期			
	前期実績				今期実績					来期見通し			
	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D.I. (A)-(C)	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D.I. (A)-(C)	前回 調査時 今期 見通し	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D.I. (A)-(C)
自社の業況	5	44	51	46	5	39	56	51	(43)	7	44	49	42
製造業	5	45	50	45	5	48	47	42	(34)	9	50	41	32
建設業	2	30	68	66	4	24	72	68	(80)	4	31	65	61
卸売業	4	50	46	42	0	44	56	56	(42)	0	46	54	54
小売業	2	33	65	63	0	26	74	74	(56)	4	35	61	57
その他産業	9	53	38	29	10	42	48	38	(28)	11	49	40	29
生産高(製造業)	15	50	35	20	13	46	41	28	(18)	12	50	38	26
売上・完工高	17	39	44	27	15	35	50	35	(26)	13	44	43	30
製造業	20	45	35	15	18	41	41	23	(13)	18	46	36	18
建設業	11	29	60	49	13	24	63	50	(69)	9	30	61	52
卸売業	20	33	47	27	13	36	51	38	(30)	10	54	36	26
小売業	16	24	60	44	10	30	60	50	(33)	11	35	54	43
その他産業	15	48	37	22	17	38	45	28	(15)	11	51	38	27
製品・商品在庫 (適正水準比)	過剰 16	適正 73	不足 11	5	過剰 17	適正 73	不足 10	7		過剰 22	適正 55	低下 23	1
販売価格	上昇 31	横ばい 50	低下 19	12	上昇 25	横ばい 53	低下 22	3	(14)	上昇 62	横ばい 35	低下 3	59
仕入価格	上昇 71	横ばい 27	低下 2	69	上昇 67	横ばい 30	低下 3	64	(70)	好転 9	横ばい 51	悪化 40	31
損益	好転 12	横ばい 43	悪化 45	33	好転 10	横ばい 41	悪化 49	39	(36)	楽 6	普通 68	窮屈 26	20
製造業	10	47	43	33	9	47	44	35	(35)	楽 4	普通 66	窮屈 30	26
建設業	7	35	58	51	7	31	62	55	(52)	楽 7	普通 72	窮屈 25	22
卸売業	18	52	30	12	8	56	36	28	(32)	楽 2	普通 65	窮屈 33	31
小売業	9	32	59	50	7	38	55	48	(52)	楽 3	普通 71	窮屈 26	22
その他産業	14	46	40	26	15	35	50	35	(22)	楽 2	普通 51	窮屈 47	45
資金繰り	楽 6	普通 68	窮屈 26	20	楽 4	普通 66	窮屈 30	26	(22)	楽 8	普通 66	窮屈 30	26
製造業	7	70	23	16	3	74	23	20	(19)	楽 2	普通 65	窮屈 33	31
建設業	4	67	29	25	2	69	29	27	(31)	楽 3	普通 71	窮屈 26	22
卸売業	0	78	22	22	3	71	26	23	(22)	楽 2	普通 51	窮屈 47	45
小売業	5	56	39	34	2	50	48	46	(30)	楽 8	普通 66	窮屈 26	18
その他産業	9	68	23	14	9	64	27	18	(14)				

第113回 企業業況アンケート調査

回答率

単位：%

	対象企業	回答企業	回答率
製造業	148	104	70.3
食料品	65	46	70.8
繊維	10	5	50.0
木材	6	3	50.0
紙・パルプ	3	3	100.0
窯業・土石	15	9	60.0
機械・金属	20	16	80.0
電機・電子	20	15	75.0
その他	9	7	77.8
非製造業計	359	229	63.8
建設業	63	46	73.0
土木	22	14	63.6
建築	14	11	78.6
総合建設	12	9	75.0
その他	15	12	80.0
卸売業	64	39	60.9
食料品	30	20	66.7
建設資材	11	8	72.7
衣料品	2	1	50.0
家電製品	6	1	16.7
その他	15	9	60.0
小売業	111	53	47.7
百貨店・スーパー	19	9	47.4
衣料品	9	4	44.4
自動車	16	5	31.3
家電製品	8	3	37.5
石油	12	8	66.7
その他	38	20	52.6
外食産業	9	4	44.4
その他	121	91	75.2
旅館・ホテル	21	17	81.0
運輸	33	23	69.7
サービス	60	46	76.7
農林水産	7	5	71.4
合計(製造+非製造)	507	333	65.7

業況D . I . の推移

			全 産 業	製 造 業	建 設 業	卸 売 業	小 売 業	その他産業
9年	10~12	月期	44	38	34	65	66	25
10年	1~3	"	44	48	8	54	57	49
	4~6	"	44	45	54	50	42	33
	7~9	"	47	53	46	55	46	38
	10~12	"	28	22	15	39	40	23
11年	1~3	"	24	30	1	30	31	17
	4~6	"	31	26	17	34	41	37
	7~9	"	31	28	30	43	37	20
	10~12	"	11	1	11	8	40	5
12年	1~3	"	11	5	4	18	24	8
	4~6	"	23	14	37	50	13	24
	7~9	"	23	15	35	31	25	21
	10~12	"	13	6	4	15	28	17
13年	1~3	"	22	27	2	18	35	18
	4~6	"	39	42	42	29	41	33
	7~9	"	41	51	30	43	39	28
	10~12	"	34	23	32	30	56	29
14年	1~3	"	34	31	44	37	36	28
	4~6	"	30	18	60	31	34	21
	7~9	"	30	13	52	31	44	24
	10~12	"	18	6	29	22	42	19
15年	1~3	"	25	13	29	19	41	28
	4~6	"	35	16	58	25	58	29
	7~9	"	24	7	48	29	34	25
	10~12	"	17	7	33	33	42	15
16年	1~3	"	12	5	35	8	23	11
	4~6	"	23	2	61	25	43	12
	7~9	"	21	8	37	27	36	14
	10~12	"	7	11	23	6	29	8
17年	1~3	"	24	16	31	17	33	31
	4~6	"	26	17	60	18	24	26
	7~9	"	27	23	40	23	28	25
	10~12	"	18	2	28	8	29	25
18年	1~3	"	22	19	23	14	36	18
	4~6	"	25	17	42	17	32	22
	7~9	"	32	31	33	25	43	28
	10~12	"	27	24	33	30	54	11
19年	1~3	"	24	19	27	35	52	5
	4~6	"	32	31	33	38	44	19
	7~9	"	38	45	31	41	51	19
	10~12	"	33	32	49	22	54	19
20年	1~3	"	34	26	49	32	52	26
	4~6	"	46	45	66	42	63	29
	7~9	"	51	42	68	56	74	38
	10~12	月期見通し	42	32	61	54	57	29

(注) D . I . = 「良い」 - 「悪い」

売上・完工高D . I . の推移（前年比）

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10～12	月期	41	40	37	63	46	26
10年	1～3	"	53	55	31	65	57	53
	4～6	"	35	35	45	46	26	29
	7～9	"	35	44	44	29	27	27
	10～12	"	28	20	23	35	26	38
11年	1～3	"	18	21	4	17	23	17
	4～6	"	16	8	39	13	12	15
	7～9	"	14	10	15	32	24	0
	10～12	"	6	0	30	7	8	10
12年	1～3	"	3	2	17	7	0	2
	4～6	"	12	10	42	28	8	7
	7～9	"	13	8	36	11	4	16
	10～12	"	17	16	28	20	11	16
13年	1～3	"	12	20	9	12	5	24
	4～6	"	30	37	28	19	28	29
	7～9	"	39	50	40	38	43	17
	10～12	"	29	23	30	39	26	38
14年	1～3	"	30	33	33	38	24	22
	4～6	"	26	15	56	32	21	21
	7～9	"	18	7	46	25	20	22
	10～12	"	18	2	25	14	26	33
15年	1～3	"	21	8	50	10	15	36
	4～6	"	23	5	45	7	44	26
	7～9	"	13	0	35	17	18	14
	10～12	"	17	1	34	25	21	26
16年	1～3	"	3	30	43	4	14	10
	4～6	"	10	7	39	10	28	1
	7～9	"	9	2	39	17	24	6
	10～12	"	3	12	31	10	14	12
17年	1～3	"	21	22	41	7	18	19
	4～6	"	12	9	43	7	7	20
	7～9	"	17	21	40	13	3	12
	10～12	"	12	12	30	9	5	16
18年	1～3	"	13	18	31	16	6	3
	4～6	"	15	17	33	15	11	8
	7～9	"	18	22	11	25	17	11
	10～12	"	20	18	28	33	30	7
19年	1～3	"	13	18	9	31	17	8
	4～6	"	22	20	36	29	23	15
	7～9	"	27	31	34	35	28	14
	10～12	"	23	8	45	22	50	13
20年	1～3	"	24	10	32	20	45	27
	4～6	"	27	15	49	27	44	22
	7～9	"	35	23	50	38	50	28
	10～12	月期見通し	30	18	52	26	43	27

(注) D . I . = 「増加」 - 「減少」

損益（前年比）D . I . の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10~12	月期	34	32	36	43	46	19
10年	1~3	"	43	42	22	48	50	49
	4~6	"	27	35	39	25	17	18
	7~9	"	21	26	37	17	13	14
	10~12	"	16	13	19	15	14	20
11年	1~3	"	8	15	0	9	6	5
	4~6	"	3	3	20	14	1	6
	7~9	"	9	4	22	21	5	4
	10~12	"	4	4	13	4	11	4
12年	1~3	"	2	3	16	5	1	0
	4~6	"	9	1	34	24	11	21
	7~9	"	8	4	18	2	2	18
	10~12	"	13	9	27	6	8	19
13年	1~3	"	11	15	0	5	11	18
	4~6	"	22	39	23	17	0	15
	7~9	"	29	41	29	23	30	17
	10~12	"	29	26	44	27	39	14
14年	1~3	"	21	22	40	15	16	17
	4~6	"	13	0	42	19	8	9
	7~9	"	7	8	33	12	3	12
	10~12	"	11	7	19	16	20	19
15年	1~3	"	12	1	29	17	3	18
	4~6	"	13	2	25	19	16	13
	7~9	"	10	3	25	20	14	13
	10~12	"	11	4	30	18	13	15
16年	1~3	"	1	16	31	2	7	2
	4~6	"	9	2	45	12	13	3
	7~9	"	7	6	35	9	10	2
	10~12	"	5	2	28	6	5	13
17年	1~3	"	18	11	41	0	20	26
	4~6	"	12	7	42	2	0	20
	7~9	"	16	17	33	15	4	14
	10~12	"	13	11	30	5	9	17
18年	1~3	"	23	22	36	22	19	20
	4~6	"	22	21	25	9	35	17
	7~9	"	28	36	24	14	40	22
	10~12	"	23	16	32	19	42	19
19年	1~3	"	19	12	32	35	30	3
	4~6	"	18	16	18	30	23	13
	7~9	"	24	29	27	25	28	13
	10~12	"	31	31	38	21	58	13
20年	1~3	"	29	25	36	29	40	23
	4~6	"	33	33	51	12	50	26
	7~9	"	39	35	55	28	48	35
	10~12	月期見通し	31	26	53	27	33	23

(注) D . I . = 「好転」 - 「悪化」

資金繰りD・Iの推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10~12	月期	21	22	10	14	28	23
10年	1~3	"	16	14	2	17	23	23
	4~6	"	11	13	0	4	23	12
	7~9	"	19	24	7	20	15	22
	10~12	"	15	7	2	16	22	26
11年	1~3	"	10	7	2	9	15	15
	4~6	"	3	2	12	2	9	13
	7~9	"	11	13	1	18	12	13
	10~12	"	8	3	4	9	19	14
12年	1~3	"	4	1	9	8	9	13
	4~6	"	0	4	13	6	6	15
	7~9	"	13	9	2	4	17	26
	10~12	"	11	9	2	5	8	26
13年	1~3	"	6	4	6	6	8	19
	4~6	"	11	16	6	5	12	22
	7~9	"	13	19	7	0	14	20
	10~12	"	16	12	14	11	22	24
14年	1~3	"	12	9	10	11	10	24
	4~6	"	6	2	7	4	6	12
	7~9	"	12	5	17	12	13	17
	10~12	"	10	4	2	15	19	22
15年	1~3	"	6	14	11	13	13	13
	4~6	"	5	4	8	17	17	23
	7~9	"	7	1	6	4	15	17
	10~12	"	9	1	17	4	17	19
16年	1~3	"	8	5	17	4	19	7
	4~6	"	3	8	5	2	20	8
	7~9	"	5	4	14	2	13	8
	10~12	"	3	1	0	3	13	4
17年	1~3	"	6	4	11	0	15	14
	4~6	"	5	0	8	5	13	14
	7~9	"	12	15	10	4	16	10
	10~12	"	12	10	9	7	20	17
18年	1~3	"	9	11	5	5	26	6
	4~6	"	7	5	2	2	17	7
	7~9	"	11	11	4	0	24	13
	10~12	"	13	9	13	0	28	13
19年	1~3	"	11	14	6	0	28	4
	4~6	"	7	6	4	7	24	8
	7~9	"	13	13	5	14	24	11
	10~12	"	16	12	19	5	35	9
20年	1~3	"	18	14	23	8	25	17
	4~6	"	20	16	25	22	34	14
	7~9	"	26	20	27	23	46	18
	10~12	月期見通し	26	22	31	22	45	18

(注) D・I = 「楽」 - 「窮屈」

第113回

業況D.I.

	19年7～9月期	20年4～6月期	20年7～9月期		20年10～12月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	38	46	43	51	42
製 造 業	45	45	34	42	32
食料品	32	29	25	15	9
織 維	64	57	43	60	60
木 材	0	50	50	67	33
紙・パルプ	0	33	33	33	33
窯業・土石	67	82	64	100	67
機械・金属	67	53	27	32	26
電機・電子	43	37	31	73	80
その 他	60	75	50	86	57
建 設 業	31	66	80	68	61
土 木	36	65	82	79	64
建 築	33	89	100	46	60
総合建設	33	67	78	67	45
その 他	20	44	56	75	67
卸 売 業	41	42	42	56	54
食料品	33	31	27	45	40
建設資材	63	45	67	88	75
その 他	44	50	40	56	67
小 売 業	51	63	56	74	57
百貨店・スーパー	67	75	75	78	67
衣 料 品	80	100	100	100	100
自 動 車	40	50	33	80	40
家電製品	50	0	50	33	33
石 油	50	75	75	75	43
その 他	41	52	42	70	60
そ の 他	19	29	28	38	29
旅館・ホテル	6	0	26	12	24
運 輸	25	24	28	52	26
サ ー ビ ス	27	40	44	52	48

第113回

売上・完工高D.I.

	19年7～9月期	20年4～6月期	20年7～9月期		20年10～12月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	27	27	26	35	30
製 造 業	31	15	13	23	18
食料品	15	13	2	4	11
織 維	55	57	43	60	60
木 材	0	50	50	67	34
紙・パルプ	0	0	0	67	34
窯業・土石	62	55	46	78	67
機械・金属	50	20	20	18	18
電機・電子	29	23	11	60	71
その 他	60	50	14	58	43
建 設 業	34	49	69	50	52
土 木	22	65	77	79	79
建 築	45	34	67	28	28
総合建設	44	50	70	45	23
その 他	30	33	56	41	67
卸 売 業	35	27	30	38	26
食料品	33	9	14	30	10
建設資材	25	0	45	63	49
その 他	44	60	40	34	33
小 売 業	28	44	33	50	43
百貨店・スーパー	45	59	59	56	33
衣 料 品	40	75	100	100	100
自 動 車	30	50	33	60	20
家電製品	100	0	50	0	0
石 油	0	12	0	12	14
その 他	18	48	24	65	50
そ の 他	14	22	15	28	27
旅館・ホテル	25	0	33	29	23
運 輸	22	23	14	37	22
サ ー ビ ス	28	34	39	48	47

第113回

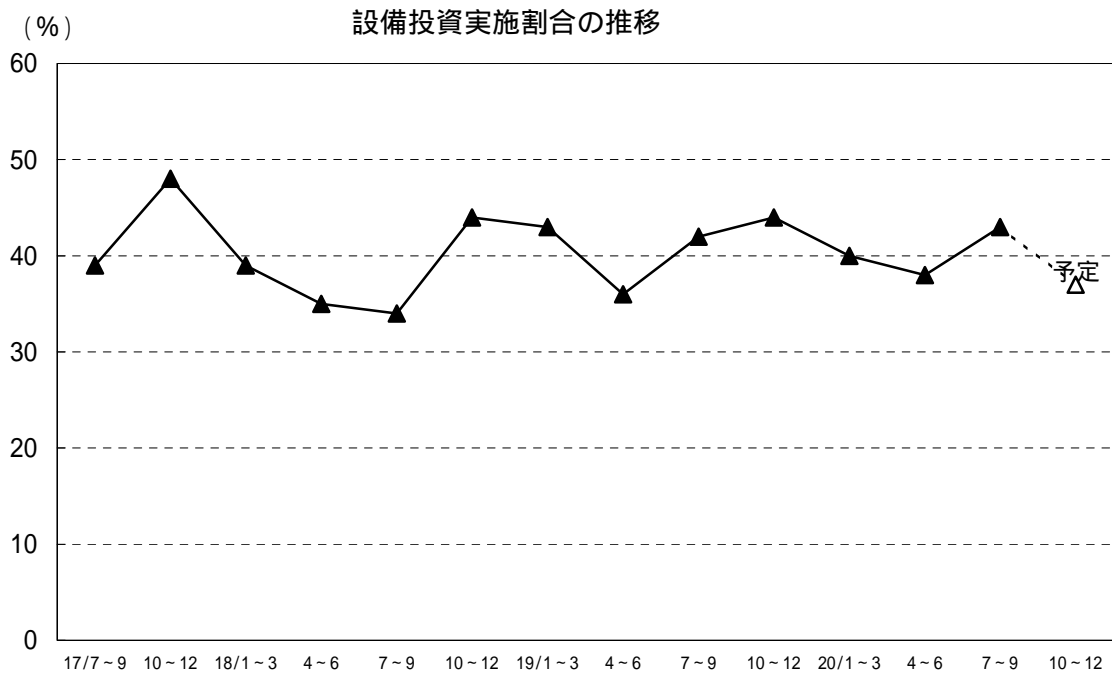
損益D.I.(前年比)

	19年7～9月期	20年4～6月期	20年7～9月期		20年10～12月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	24	33	36	39	31
製 造 業	29	33	35	35	26
食 料 品	29	25	34	20	13
織 維	37	29	43	60	60
木 材	0	50	50	67	34
紙・パルプ	0	0	33	33	33
窯業・土石	22	60	60	78	67
機械・金属	42	40	27	38	26
電機・電子	14	29	17	53	60
そ の 他	40	50	50	43	14
建 設 業	27	51	52	55	53
土 木	29	53	53	71	50
建 築	34	56	67	30	50
総合建設	33	50	40	45	45
そ の 他	10	45	45	67	67
卸 売 業	25	12	32	28	27
食 料 品	24	4	19	35	15
建設資材	13	0	38	37	63
そ の 他	33	10	40	11	25
小 売 業	28	50	52	48	33
百貨店・スーパー	11	82	82	56	22
衣 料 品	20	100	100	75	75
自 動 車	20	0	0	20	20
家電製品	0	50	50	0	0
石 油	50	37	63	26	37
そ の 他	27	43	38	60	35
そ の 他	13	26	22	35	23
旅館・ホテル	32	6	13	30	18
運 輸	16	17	35	61	17
サ ー ビ ス	29	36	29	46	39

第113回

資金繰りD.I.

	19年7～9月期	20年4～6月期	20年7～9月期		20年10～12月期
	前年同期	前 期	今期 見通し	今期 実績	来期 見通し
全 業 種	13	20	22	26	26
製 造 業	13	16	19	20	22
食 料 品	7	12	14	9	11
織 維	18	43	43	60	60
木 材	0	0	0	0	0
紙・パルプ	0	0	0	0	0
窯業・土石	11	46	60	56	22
機械・金属	33	7	7	19	32
電機・電子	7	13	13	36	36
そ の 他	40	12	12	14	29
建 設 業	5	25	31	27	31
土 木	14	29	35	22	29
建 築	25	11	33	30	27
総合建設	22	30	30	33	22
そ の 他	0	22	22	25	42
卸 売 業	14	22	22	23	22
食 料 品	9	13	9	15	10
建設資材	12	33	33	50	50
そ の 他	22	20	30	13	13
小 売 業	24	34	30	46	45
百貨店・スーパー	11	27	27	26	37
衣 料 品	80	100	100	100	100
自 動 車	10	0	0	20	20
家電製品	0	0	0	0	33
石 油	17	50	43	37	14
そ の 他	27	33	28	60	60
そ の 他	11	14	14	18	18
旅館・ホテル	0	14	7	7	13
運 輸	17	13	13	28	14
サ ー ビ ス	14	13	17	15	20



第113回

設 備 投 資

単位: %

		全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
20 / 7 }	実施した	43	52	22	33	40	47
	設備機械等の更新、維持	66	72	43	69	53	67
	生産・販売能力増強	28	26	29	31	42	23
	省力化、合理化、省エネ	24	33	43	39	11	12
	経営多角化	4	2	0	8	11	5
	新製品等の研究開発	4	4	0	0	5	5
	その他	4	0	0	0	5	9
9 月	実施予定	37	46	18	26	29	44
	設備機械等の更新、維持	69	73	86	50	54	72
	生産・販売能力増強	31	36	0	30	62	21
	省力化、合理化、省エネ	18	20	43	40	0	13
	新製品等の研究開発	4	2	0	20	0	5
	経営多角化	2	0	0	0	8	3
	その他	3	2	0	0	8	3
10 / 12 }							
12 月							

(注) 計数は構成割合、投資目的は複数回答

設備投資実施割合の推移

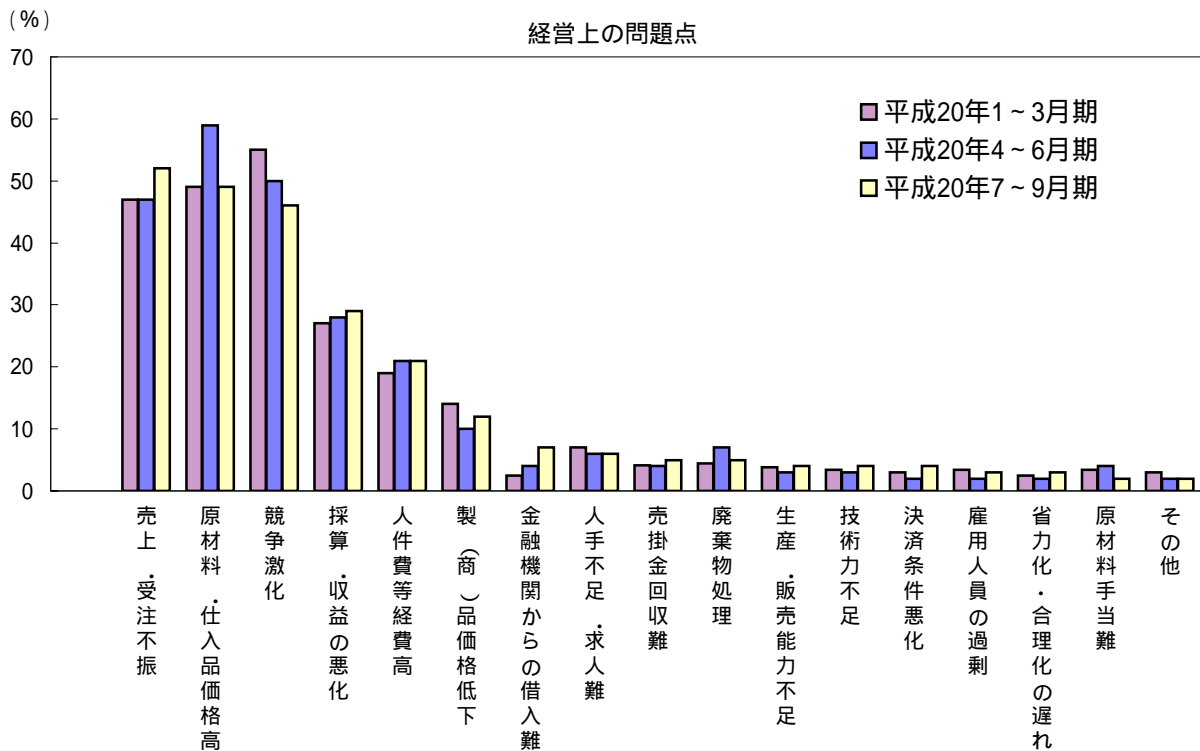
単位：%

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
9年	10～12	月期	36	42	33	25	37	35
10年	1～3	"	31	36	17	17	31	44
	4～6	"	33	37	25	20	30	42
	7～9	"	30	37	18	17	32	34
	10～12	"	33	37	25	22	28	44
11年	1～3	"	28	32	27	22	18	38
	4～6	"	30	39	19	17	30	33
	7～9	"	31	35	17	29	31	34
	10～12	"	31	39	15	27	31	32
12年	1～3	"	32	40	17	26	28	37
	4～6	"	35	41	26	27	34	38
	7～9	"	36	39	20	43	30	45
	10～12	"	35	45	23	30	30	31
13年	1～3	"	33	40	24	28	22	41
	4～6	"	32	36	24	25	35	31
	7～9	"	34	37	20	33	31	42
	10～12	"	31	40	19	33	29	28
14年	1～3	"	28	30	19	31	27	31
	4～6	"	30	33	15	28	35	35
	7～9	"	33	42	22	28	35	30
	10～12	"	31	37	21	28	27	40
15年	1～3	"	30	40	18	28	24	31
	4～6	"	32	34	14	40	30	38
	7～9	"	33	38	21	30	29	37
	10～12	"	33	43	26	25	22	38
16年	1～3	"	31	45	7	28	30	30
	4～6	"	31	38	33	21	24	33
	7～9	"	35	43	12	24	33	50
	10～12	"	33	36	21	23	36	39
17年	1～3	"	31	35	15	30	24	41
	4～6	"	35	42	26	28	29	39
	7～9	"	39	44	19	35	40	46
	10～12	"	48	59	27	50	39	55
18年	1～3	"	39	48	16	39	40	42
	4～6	"	35	45	15	28	33	40
	7～9	"	34	43	11	27	35	41
	10～12	"	44	50	28	35	44	50
19年	1～3	"	43	50	30	42	41	43
	4～6	"	36	48	20	31	28	40
	7～9	"	42	46	24	38	40	49
	10～12	"	44	58	25	24	42	48
20年	1～3	"	40	50	14	37	38	44
	4～6	"	38	45	11	27	42	45
	7～9	"	43	52	22	33	40	47
	10～12	月期見通し	37	46	18	26	29	44

単位：%

	全産業		製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
		構成比					
売上・受注不振	52	20.5	43	76	53	62	46
原材料・仕入品価格高	49	19.3	72	49	40	30	37
競争激化	46	18.1	25	69	47	64	46
採算・収益の悪化	29	11.4	23	42	40	42	18
人件費等経費高	21	8.3	17	7	24	30	28
製(商)品価格低下	12	4.7	13	11	13	11	10
金融機関からの借入難	7	2.8	6	4	5	13	7
人手不足・求人難	6	2.4	3	4	5	8	11
売掛金回収難	5	2.0	7	2	18	2	0
廃棄物処理	5	2.0	10	2	8	2	2
生産・販売能力不足	4	1.6	3	2	3	9	2
技術力不足	4	1.6	5	9	0	4	2
決済条件悪化	4	1.6	6	7	8	2	0
雇用人員の過剰	3	1.2	3	2	3	8	2
省力化・合理化の遅れ	3	1.2	4	0	3	4	3
原材料手当難	2	0.8	6	0	3	0	0
その他	2	0.8	2	0	8	0	3
回答企業数	328		103	45	38	53	89

(注) 複数回答につき計算は $\frac{\text{該当項目の回答数}}{\text{回答企業数}} \times 100$



雇 用 状 況 に つ い て

1. 従業員の過不足

(単位: %)

	全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
過 剰	16	15	24	18	21	10
適 正	74	78	67	77	70	73
不 足	10	7	9	5	9	17
D.I.	6	8	15	13	12	7
前年D.I.	4	0	2	0	14	8

注:社数構成比

2. 「過剰」の理由(複数回答)

(単位: %)

	全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
売上(受注)不振による事業規模の縮小	81	93	91	75	64	75
機械化、人員配置見直し等の合理化	25	27	18	13	27	38
過去に新卒、中途採用を大量に実施	6	7	0	13	0	13
海外進出に伴う、国内規模縮小	2	0	0	13	0	0
そ の 他	4	0	0	0	18	0

3. 「不足」の理由(複数回答)

(単位: %)

	全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
募集しても適当な人材が見当たらない	79	50	75	100	100	86
売上(受注)好調による事業規模拡大	10	17	25	0	0	7
新分野への進出等業務分野拡大	0	0	0	0	0	0
そ の 他	10	33	0	0	0	7

4. 職種別の過不足(「過剰」 - 「不足」)

	全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
一般事務	6	3	16	7	11	2
管 理	1	5	15	7	11	6
営業・販売	10	14	3	7	11	13
生 産	1	7	3	0	0	6
技術開発	22	30	30	25	6	10

5. 年代別の過不足(「過剰」 - 「不足」)

	全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他
10~20歳代	48	36	66	63	47	45
30歳代	44	42	53	22	42	50
40歳代	9	10	10	13	10	16
50歳代	31	21	45	39	40	28
60歳代	20	18	19	15	18	27

6. 「増加」、「減少」の対象者(全産業)

	増加	現状程度	減少
正社員	10	69	21
パート	15	71	14
派遣社員	6	75	19

平成21年度新規学卒者の採用計画

(単位:%)

		全産業		製造業	建設業	卸売業	小売業	その他	
		328	前年	103	46	38	52	89	
21年度新規採用計画	あり	37	(38)	31	31	40	44	40	
	なし	44	(41)	49	52	42	37	40	
	未定	19	(21)	20	17	18	19	20	
実績比 前年	増加	19	(24)	22	40	27	0	21	
	前年並み	59	(63)	65	30	55	84	46	
	減少	22	(13)	13	30	18	16	33	
	D.I.「増加」-「減少」	3	(11)	9	10	9	16	12	
学歴別	高校卒	0	(14)	11	22	0	13	12	
	専修学校卒	4	(7)	9	80	0	0	22	
	高専卒	9	(9)	0	67	0	0	44	
	短大卒	6	(4)	20	50	0	10	0	
	大学卒	1	(2)	11	25	16	19	11	
	大学院卒	13	(3)	14	100	25	0	37	
		D.I.「増加」-「減少」				いずれも回答企業割合			
目的	退職者補充	56	(48)	57	64	47	48	61	
	販売・営業部門強化	40	(37)	26	21	60	65	36	
	店舗増設等の業務拡大	13	(18)	17	7	0	22	9	
	管理部門強化	5	(12)	6	7	0	0	9	
	新規事業への進出	4	(3)	9	0	13	0	0	
	その他	8	(10)	11	14	7	0	9	
募集方法	学校訪問・求人票送付	85	(90)	89	86	87	74	88	
	インターネットのホームページ	30	(32)	26	21	47	30	29	
	新聞・就職情報誌	15	(20)	9	7	7	26	21	
	その他	9	(9)	11	7	7	13	6	
採用の難易度	確保できそう		77	(71)	77	62	100	70	79
	理由	学卒者の県内志向の高まり	51	(72)	56	50	31	80	46
		全体的な求人数の減少	33	(15)	28	33	46	0	46
		労働条件などの改善	5	(9)	8	0	0	0	9
		その他	13	(9)	8	17	23	20	9
	確保は難しい		23	(29)	23	38	0	30	21
	理由	適当な人材がない	75	(62)	43	80	0	83	100
		労働条件が他企業より劣る	17	(29)	14	20	0	33	0
		県外志向が依然強い	8	(15)	14	0	0	0	17
		その他	8	(9)	29	0	0	0	0
採用に際して	労働条件を改善		16	(15)	20	21	0	0	27
	内容	初任給引上げ	53	(72)	57	33	0	0	56
		休暇の拡充	21	(22)	14	67	0	0	11
		労働時間短縮	21	(17)	0	33	0	0	33
		その他	16	(6)	29	0	0	0	11
	労働条件は本年度と同じ		84	(85)	80	79	100	100	73
採用計画の理由	現有の人員で充分	71	(60)	67	78	70	67	76	
	組織のスリム化	24	(18)	20	13	45	43	18	
	中途採用で対応	20	(24)	18	22	15	19	24	
	事業規模の縮小	14	(8)	18	13	15	14	9	
	パートで対応	13	(13)	10	9	15	14	18	
	合理化・機械化の促進	11	(9)	16	0	25	19	0	
	業務のアウトソーシング化	5	(5)	7	9	10	0	2	
	派遣社員で対応	3	(3)	3	0	10	0	2	
その他	2	(4)	3	4	0	0	0		

(注)単位が回答率(%)で表示されている項目は、複数回答。

最近の業況に関する主な意見

業 種		最近の業況
製造業	焼酎	事故米の風評被害が一部発生している状況と思われるが、弊社の出荷量に変化はない(5月からやや前年より減少傾向)。今後、消費者が信頼できるものを購入するのか、離れるのかは不明であるが、メーカーとしては安心・安全を強調し、努力することが必要と思われる。 これまでが異常な伸びとなっているので、その伸びが終わり本当の需要がどの位なのか見極めが必要であると思う(前年比減)。事故米の不正流通による問題で、鹿児島県産の芋焼酎全体に大きな影響が出ている(買い控え)。これからどの様に信頼を回復できるかがこれからの鍵となる。
	食料品	食品業界での事故(中国産、事故米等)により、製造・販売に苦慮している。 あらゆるものが値上がりするなか、漬物価格は上がらない。
	かつお節	原料(生、節)高止まりの状況が継続中。製品の価格転嫁から、値上げの第一弾を実施したものの、一部の転嫁に過ぎず、近々、第二弾を実施予定。
	水産加工	資材、燃料値上がりが厳しい。先が見えてこない。 燃料の値上がりはどの業界も同じですが、私どもの業界は主原料の魚肉(冷凍すり身)の価格高が続き、異常な状況で先行き不安を感じる。
	菓子	原材料、資材の高騰により、利益が圧迫され、人員の削減や仕事の効率化により利益を維持しているのが現状です。新しい市場がなかなか見つからず売上げも現状維持、または、減少に向かいつつあり、2011年の九州新幹線全線開通まで我慢するのが現状です。 三笠フーズの事件で業界への風当たりが強く菓子購入が減少している。特に専門店で、新聞で報道された店は大ピンチです。なかには倒産に追い込まれる企業も出てくるかと思われる。
	飼料	食料自給率40%ではあるが、飼料、肥料の原材料の大部分を海外に頼っている今日、価格、数量共に入手困難である。これでは農家、漁民とも成り立たない。加えて、燃料高騰では地域産業はどうなるのかは明らかである。
	窯業・土石	公共工事発注が減少(舗道、公園整備、モニュメント等の石工事が削減され、なくなってきた)。また、墓石も工場を持たない個人販売店が急増し、価格競争が激化している。
	機械・金属	販売不振、原料高。求人しても人が来ない、来ても技術者がいない。全くひどい状況。 金属加工製造業は全体的に受注競争が激化している中で、地場企業(大手)の受注不振により、取扱いも減少してきている。併せて、原材料、燃料費のコスト高騰により厳しい経営環境が続くと予測される。
	電機・電子	コストダウンの要求(製造請負)により大変厳しくなってきた。 市況の悪化等による受注減が著しい。県内企業のみならず、県外の同業他社の情報を何らかの形で頂けると非常に良い。
建設業	建築	建設業界を取り巻く環境に合わせて政治の不安定、アメリカの金融問題等、一層の景気悪化を懸念しています。 売上高の減少、原材料資材等の高騰に厳しい状況下での経営が続いている。
卸売業	食料品	国内産の原料確保難、原料仕入高騰、運賃コスト高。県外向けの商品発送が多いため、運送費高騰となってきました。 可もなく不可もなく売上げはほぼ横這いですが、人員は不足気味。
	建材	建設業の相次ぐ倒産で営業面の与信管理を特に重視するようになった。
	医薬品	ニッチな業界であるが価格競争が熾烈すぎる。

小売業	百貨店・スーパー	消費マインドの冷え込みにより売上高が減少。南部地区大型店との競争により客数が減少。世界的な不況により将来への不安増大。
	石油・ガス	相次ぐ仕入価格上昇に伴う小売価格値上げによるお客様の買い控え、普通車から軽自動車への移行、公共事業減少による販売数量の落込み。
	機械	収益について先行不透明、悪化予想。同業間での販売競争が激しくなっている。
	生活用品	建設業・不動産業が不振で飲食業に対する利用回数、単価等が減り、備品等の買い替えや追加購入が減少し売上が伸びる要素がない。また、近年、大型SCが増え、個人経営店が廃業へ追い込まれ商店街の空き店舗が増えている。
	旅館・ホテル	篤姫効果で7.8月までは良かった。しかし、原材料の高騰が予想以上に大変である。10月～12月は原材料の高騰に加え、忘年会などの単価の低下が見込まれるため楽観視できない状況です。
		「大変苦しい状況」になっている。売上減少及び収益の悪化が著しくなっている。
	運輸・通信	原油高騰が経営を圧迫しており、景況感の悪化が収まる見通しはない。
		最近の原油高騰で競争(新規)条件が総合力、財務内容等で判断されるため有利となってきた。
	機器修理	建設業の不振が当社に大きく響いている。
	自動車修理	受注が少なく、材料代の値上がりで見積りがしにくい。人員を減らすわけにもいかず、やりにくい。会社の中心人物が高齢化しており、若い人を育成したいがなかなか難しい。
	情報・通信	県内の情報化投資について、減少状況が続いているように感じます。
	ゴルフ場	県内客は微減だが、県外客は微増であった。
	建物管理	契約先の不況で契約解約数増加。新規契約と契約解約ほぼ同数。今後もこの動向は続くと予測。新規契約増に向けた営業戦略をしっかりと構築する必要あり。
	美容	過当競争のなかで非常に厳しい状況が続いております。売上が減少したにもかかわらず人員がそのまま人員過剰気味です。今後を真剣に考えなければ企業存続が危ぶまれる。
	不動産	鹿児島中央駅前商業ビル建築によるテナント動向が気になる(情報収集中)。
	広告	企業の収益悪化に伴い、広告宣伝費も大幅減少している。
農林水産	燃油高騰のあおりで大変です。漁価を値上げするも漁模様がかなり低調です。	
	燃料及び鋼材価格の動向が今後の業績に重大な影響を与えそう。	